

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300129		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢青木		
所在地	藤枝市青木2丁目15-5		
自己評価作成日	令和5年11月26日	評価結果市町村受理日	令和6年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295300129-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 5年 11月 29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にある「その人がその人らしく」、認知症の人ではなくその人自身を捉えた支援を大切にしています。利用者と職員が共に暮らすアットホームな施設です。
同法人内の医療機関と密に連携し定期的な訪問診療や緊急受診にも対応しております。様々な形態の施設も設備しており利用者、ご家族が安心して過ごし対応ができる法人、施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は病院・老健施設・複数のGHを運営しており、法人本部は管理者会議・訪問診療などにより、事業所運営を支援している。コロナ禍による制限緩和を受けて、地域の防災訓練参加や一時集合場所の利用、ボランティアの演奏会、住民相談会など、積極的な交流が復活してきた。「実夢青木通信」や窓越し面会、面会希望家族の送迎など工夫して、家族との関係の継続に努めている。法人は、個人面談や研修による職員の資質向上の仕組みを整え、管理者は、都度職員と対話ができる環境作りに努めている。管理者・職員はスタッフ会議・ケア会議にて意見交換を行い、医療・家族と連携して介護計画を作成し、利用者・家族の希望に沿った自立した生活の支援を心掛けている。事業所は、医療法人としての特性を活かし、医師・看護師との連携による健康管理、管理栄養士と連携した献立による手作りの食事の提供など、安全・安心な環境作りに注力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は全員で作った自設の理念を基に実践につなげる努力を行っている。	法人は複数のGHを運営しており、毎月1回管理者会議（マンスリー会議）にて情報を共有している。管理者・職員は理念に沿った目標を立て、スタッフ会議（1回／月）や朝夕の申し送りの場で情報共有と意見交換を図り、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが五類となり、少しずつコロナ前の状態に戻ってきている。認知症対応型介護施設という事で地域の方に相談を受ける機会はある。	コロナによる交流制限の緩和を受けて、地域住民との交流機会を増やしている。地域の防災訓練や花火大会の際の駐車場利用、ボランティアによるハーモニカ演奏、地域住民との相談機会などを設けて、積極的な活動を心掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を生かし地域の方から相談を受ける機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設でのサービスの取り組み状況の話し合いを行い、その時の意見、要望を取り入れサービス向上に生かしている。	運営推進会議は1回／2か月、今年度9月からは対面により開催している。行政、町内会長、自治会長、民生委員の参加のもと、意見や要望を聴き取り、運営に反映している。家族代表の参加は感染状況をみながら、慎重に検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議に必ず出席して頂き事業所の取り組み等の状況提供を行っている。市相談員にも来訪して頂き取り組んでいる。	運営推進会議には市担当者が毎回参加し、直接事業所からの質問や行政の要望について、話し合うことが出来る。市介護相談員の訪問時なども活用して、都度、行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。定期委員会、研修をし知識の習得や対応を話し合っている。	身体拘束適正化委員会は、スタッフ会議を利用して1回／3か月開催している。法人による研修を年2回実施して、職員全員が身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。虐待防止に関する委員会および研修も、同時に実施している。	虐待防止に関する指針の策定や研修の実施については、24年度から単独で義務付けられることから、委員会・研修は、身体拘束適正化と虐待防止を区別して実施することを期待します。

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について研修等で学び虐待の無いよう注意を払い拘束を含め定期的に話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活支援事業の必要性がある場合活用に心がけており、成年後見人制度を活用している利用者を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は利用者、ご家族等に説明を行い理解、納得を頂いている。説明を受けたことの署名をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、要望を管理者、職員は理解し運営に反映させ、毎月「実夢タイムズ」という事業所便りを発行している。定期的に会議を実施し利用者や家族の声を法人内で話し解決活用している。	家族の訪問は、事前予約で玄関での窓越し面会を継続してきたが、制限緩和を受け、感染状況を慎重に見極めながら、室内での面会も検討している。毎月「実夢青木タイムズ」にて利用者の様子を伝えるとともに、管理者からこまめに電話をかけ、家族の要望の聴き取りに注力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は懇親会などを開き職員の意見、提案を聞き反映させている。管理者は職員と話しやすい雰囲気を作り意見や提案を出しやすい環境作りをしている。	法人は、年度初めに提出する職員の「目標チャレンジカード」と「チェック項目リスト」を基に、年3回個人面談を行い、年2回の人事考課の評価と職員のスキルアップに繋げている。管理者は、都度職員と対話が出来た環境作りを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの力量を把握し、研修の確保やトレーニングを行っている。職員個人で年間目標を作り自己研鑽に努めている。法人内で研修をし職員を育てる取り組みをしている。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の他施設と交流を図り、毎月の研修、勉強会に参加しサービスの質向上の取り組みを行っている。研修に参加し他事業所との意見交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に寄添って困っていること、不安、要望に向かい合い、本人の安心できる関係づくりをしている。認知症の人ではなく、その人の一部に認知症があるという事を意識しその人個人を捉える様に関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安、要望に添った話し合いを行い、ご家族が安心、納得できる様な関係作りに努めている。随時日々の様子を伝えご家族の安心を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の時点で子細なアセスメントを行い、適切な支援、サービス利用の提供に努めている。他業種とも連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努力をし、おおむねその関係になっている。グループホームという事で一緒に生活している同士という考えのもとと実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族を支えながら協力を仰ぎ、共に利用者を支えることを心がけている。定期的に報告や面会の機会をつくり関係を途絶えさせない取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人、場所が途切れないでいる利用者もいるが上手く関係の継続が出来ていない人もおり様々である。コロナ禍ということもあり電話で話をされる利用者もあり、入所時の家族には関係作りの話をし気軽に電話等をしていただける開かれた施設を目指している。	コロナ禍でも、電話連絡や窓越し面会などにより関係継続を図ってきたが、制限緩和を受けてコロナ前の状況に戻すことを目指している。月2回の訪問美容の利用や、運転ができない面会希望家族の送迎やこまめな電話連絡など、利用者・家族の希望を聴きながら、関係の継続に努めている。	

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、孤立せずにより良い関わり合いが出来るよう注視している。一人一人の性格を意識し職員が介入する事で関係作りにつとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係の継続に努め必要とされれば相談にのっている。実際に入院や他施設への移動後も経過を伺ったり、実際に会いに出向いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式の一部を使い、本人の思いや希望、意向を把握し利用者中心のケアを提供する。	管理者は、入居前の思い・希望や暮らしぶりについて、利用者・家族・関係者から聴き取り、「情報シート」にまとめ、職員と情報を共有している。入居後は、管理者・担当職員を中心に、都度、意向の把握に努め、他の職員と連携した対応を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族の協力を得てフェイスシート、アセスメントシートに適切な情報を多く入れ、職員の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日常に一人一人の心身状態や日々の様子の变化に気を付け、把握に心がけている。その日に起こった事や些細な変化の情報共有に努めている。医療とも連携し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画の作成に努めている。 ケアプラン作成時にはケア連絡表からの情報やケア会議で職員より意見を聞き取りモニタリングに反映している。	毎月ケア会議にて意見交換を行い、介護計画作成に反映している。利用者の状態について、ケア連絡表や支援経過表を基に、管理者・職員・ケアマネジャーが情報共有するとともに、医療・家族との連携した、モニタリング作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を支援経過表やケア連絡表に記入し、ケアプランの見直しに生かしている。また医療と密に連携をとり反映している。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応した柔軟なサービス提供に心がけ、多様化に向けて取り組めるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を上手に活用できるように心掛け外出等している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、主治医との連携をとり医療連携をとり良い関係を築いて適切な医療を受けられている。訪問診療を開始した。	運営医療法人の病院医師による月2回の訪問診療と看護師(週1回訪問)との連携により、利用者の健康を管理している。管理者・職員は、24時間直接電話で医師や看護師に相談しながら、常に的確な対応ができる。他科への通院は、家族と連絡を取りながら、管理者・職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はバイタル計測し日々の変化、体調などの気づきに対し看護師と相談し適切な看護や受診が行えている。24時間オンコールできる体制もある。病院に直接電話し主治医や病院看護師と情報共有、また救急救命士同乗し搬送する体制もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関は同法人内にもあり医療連携をしている。入院時を含め病院との連絡、情報の提供は密にとれており、良い関係を築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して、入所時にご家族、ご本人と話をし施設で出来る事の説明を行っている。法人本部の病院関係者との関係づくりは出来ている。	重度化や終末期における事業所の対応は、「利用者の重度化した場合の対応に係る指針」を示して入居時に丁寧に説明し、利用者・家族の同意を得ている。運営法人が医療法人であることから、終末期には法人本部と連携しながら、家族の意向に沿って支援にあたる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備し迅速な対応ができるよう心掛けている。法人内で研修も開かれており参加し実践力を身に付ける取り組みをしている。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の非常用避難スロープを製作したうえで年2回の定期的な訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。運営推進会議等でも議題にあげ話をしている。	防災訓練は、年2回テーマを決めて実施している。運営推進会議でも検討を続け、地域住民が避難する際の一時集合場所として、地域との協力体制を確認している。防災備蓄品は発災後7日間を想定して、法人本部と協力して備蓄管理している。	訓練実施で得た課題は、次回訓練へ継続して改善されることが重要なことから、課題を整理した訓練記録の整備を期待します。災害時業務継続計画(BCP)では、事業所ごとの現状に即して、地域住民と連携した計画策定を期待します。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。認知症の理解も必要である、その人らしさ、個人を捉えた対応をする様に努めている。	個人情報保護や写真掲載について、入居時に利用者・家族の同意を得ている。個人情報の取扱いや利用者の尊厳について、定期的に研修を実施して、常に職員との情報共有を図っている。管理者は、職員の発言や行動に課題がみられた時は、都度注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や思いを聞き取り、本人の意思に沿った支援を行っている。自分の思いを認知症の為声として表出する事が困難な人もいる。その人の姿、行動から察し気付くという事を職員は大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	効率ばかりにとらわれずその人のニーズを常に考え職員都合になってしまわないように日々その人らしい暮らしの支援を心がけている。日々話をする事で		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の服を選んでもらいその人らしいおしゃれの支援を行っている。整容にも気遣い、身だしなみにも気を配るよう支援をしている。化粧等入居以前にしていた事も継続し行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの食事の好みを把握し、食事の楽しみの提供、配膳、食器洗い等、職員と共に行っている。家で行っていたことを引き続き行っただき認知症の進行やADLの低下を予防している。	食事を楽しむことを第一に考え、利用者個々の好みや希望を聴き取り、職員が手作りで提供している。法人管理栄養士と連携して、利用者情報を献立作りに活かしている。生活リハビリを目途に、配膳・下膳、食器洗い等、職員と共に行い、楽しい食事提供を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量に気を配り、本人の摂取しやすい食事形態の提供を行っている。好みの把握をに対応している。定期的に血液検査等を実施し状態の把握をしている。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各利用者に合わせた口腔ケアを行い口腔内の清潔を図っている。臥床時には入歯を洗浄剤に浸け清潔を保っている。市との研修座学実践口腔ケア技術向上事業にも参加した経験を活かし活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツ使用の無いうように支援し、個人に合った排泄方法やトイレ誘導時間を設定している。また、相手の自尊心を傷つけない声掛け、対応に配慮している。本人の排泄リズムが把握できるように排泄表で確認している。	「排泄表」を参考にしてトイレへの声掛け・誘導を行い、先回りケアを心掛けている。適度な運動、食事・食材の工夫などに留意しながら、本人の排泄パターンの把握に努め、安心・安全に配慮した排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘予防に気を配り飲食物の工夫や適度な運動を取り入れ活動性向上を実施している。必要により医師に相談し指示をもらい薬での対応をしている。薬も調整をして適切な本人の苦痛でない排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて日のあかない様調整をして温度、入浴時間を適切に管理し楽しく入浴ができるよう支援している。利用者の要望に応え入浴剤や足湯の活用等様々な実施している。	概ね週2回・午前入浴を目途に、利用者個々の様子・希望に沿った入浴支援を心掛けている。夜の足湯や入浴剤を活用して、利用者が心地よく入浴できるように支援している。利用者の身体状況に合わせて入浴できるように、機械浴も整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて休息や夜間睡眠が良いものとなる様、各利用者に合わせて支援している。また中には自身で伝えられない利用者もあり、日々の様子から職員間で情報共有し個人に合わせた休息時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方薬の目的を理解して服薬後の症状の変化に注意している。場合によっては医師や薬剤師に相談をして調整変更中止を行って。処方薬を各利用者でまとめ職員が直ぐに把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりに合わせたレクリエーションなどの楽しみや居心地の良い場の提供を心がけて支援している。家でしていた事の延長をなるべく施設でも出来る取り組みを実施している。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍という事もあり困難ではあるが、一人ひとりの気分転換をはかるため外に出る機会はずくり対応している。	感染防止のため制限した外出が続く中でも、天気が良い日は事業所近くの公園までの散歩(15分程度)に出掛けるなど、利用者に合わせた外気浴の実施に取り組んでいる。藤の花見ドライブ、プランターの水やりなど、利用者の希望に沿った季節ごとの外出支援を工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金(小銭)の所持をされている入居者もあり、希望や能力に応じてお金の使用ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には自由な電話の使用を支援し、手紙のやり取りも自由に行っている。文通をしている利用者や遠方の家族、友達とも電話をしたりかかってきたりと繋がりを継続するように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快なモノ、混乱を招くようなモノを置かないようにしている。季節を感じられるよう時節に合った飾り物、花を植栽し楽しんでいる。	玄関先のプランターや生け花、季節を感じる飾り物により、居心地の良い共有空間作りを楽しんでいる。感染防止として、法人の感染防止対策マニュアルに従い、毎日定期的な消毒・手洗いを実践し、換気・清掃にも留意して、清潔で安全な環境整備を心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれたり、気の合った仲間が過ごせるような居場所の工夫をしている。安心感や自分の居場所を見つけてもらうよう見守りケアをしている。初めは職員が介入しコミュニケーションをとり関係作りをしその人同士の繋がりをつくる支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談をして本人の使い慣れたものや好みのものを置き、落ち着いて過ごしやすい空間作りをしていただいている。安心できる場所、自分の居場所という認識を持っていただくように支援している。	クローゼットのある居室には、利用者が使い慣れた筆筒等を持ち込み、利用者好みの居場所作りを支援している。食器(茶碗)は自宅で使用していたものを持参してもらう。職員は利用者や家族と相談しながら、日々の清掃や衣替えを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ安全かつ自由で快適な生活ができるよう心掛けている。できることとしていることの把握を職員間で話し、過介助とならないようにケア会議で話し援助している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295300129		
法人名	社会医療法人 駿甲会		
事業所名	グループホーム実夢青木		
所在地	藤枝市青木2丁目15-5		
自己評価作成日	令和5年11月26日	評価結果市町村受理日	令和6年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295300129-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 11月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念にある「その人がその人らしく」、認知症の人ではなくその人自身を捉えた支援を大切にしています。利用者と職員が共に暮らすアットホームな施設です。
同法人内の医療機関と密に連携し定期的な訪問診療や緊急受診にも対応しております。様々な形態の施設も設備しており利用者、ご家族が安心して過ごし対応ができる法人、施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は全員で作った自設の理念を基に実践につなげる努力を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが五類となり、少しづつコロナ前の状態に戻ってきている。認知症対応型介護施設という事で地域の方に相談を受ける機会はある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法を生かし地域の方から相談を受ける機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設でのサービスの取り組み状況の話し合いを行い、その時の意見、要望を取り入れサービス向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者には運営推進会議に必ず出席して頂き事業所の取り組み等の状況提供を行っている。市相談員にも来訪して頂き取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。定期委員会、研修をし知識の習得や対応を話し合っている。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について研修等で学び虐待の無いよう注意を払い拘束を含め定期的に話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活支援事業の必要性がある場合活用に心がけており、成年後見人制度を活用している利用者を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約また改定等の際は利用者、ご家族等に説明を行い理解、納得を頂いている。説明を受けたことの署名をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見、要望を管理者、職員は理解し運営に反映させ、毎月「実夢タイムズ」という事業所便りを発行している。定期的に会議を実施し利用者や家族の声を法人内で話をし解決活用している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は懇親会などを開き職員の意見、提案を聞き反映させている。管理者は職員と話しやすい雰囲気を作り意見や提案を出しやすい環境作りをしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各状況を把握し、向上心を持って働けるよう環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの力量を把握し、研修の確保やトレーニングを行っている。職員個人で年間目標を作り自己研鑽に努めている。法人内で研修をし職員を育てる取り組みをしている。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の他施設と交流を図り、毎月の研修、勉強会に参加しサービスの質向上の取り組みを行っている。研修に参加し他事業所との意見交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に寄添って困っていること、不安、要望に向かい合い、本人の安心できる関係づくりをしている。認知症の人ではなく、その人の一部に認知症があるという事を意識しその人個人を捉える様に関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っていること、不安、要望に添った話し合いを行い、ご家族が安心、納得できる様な関係作りに努めている。随時日々の様子を伝えご家族の安心を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の時点で子細なアセスメントを行い、適切な支援、サービス利用の提供に努めている。他業種とも連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と暮らしを共にする者同士の関係を築くよう努力をし、おおむねその関係になっている。グループホームという事で一緒に生活している同士という考えのもと実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族を支えながら協力を仰ぎ、共に利用者を支えることを心がけている。定期的に報告や面会の機会をつくり関係を途絶えさせない取り組みをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人、場所が途切れないでいる利用者もいるが上手く関係の継続が出来ていない人もおり様々である。コロナ禍ということもあり電話で話をされる利用者もあり、入所時の家族には関係作りの話をし気軽に電話等をしていただける開かれた施設を目指している。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、孤立せずにより良い関わり合いが出来るよう注視している。一人一人の性格を意識し職員が介入する事で関係作りにつとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても関係の継続に努め必要とされれば相談にのっている。実際に入院や他施設への移動後も経過を伺ったり、実際に会いに出向いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式の一部を使い、本人の思いや希望、意向を把握し利用者中心のケアを提供する。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族の協力を得てフェイスシート、アセスメントシートに適切な情報を多く入れ、職員の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日常に一人一人の心身状態や日々の様子の变化に気を付け、把握に心がけている。その日に起こった事や些細な変化の情報共有に努めている。医療とも連携し対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画の作成に努めている。 ケアプラン作成時にはケア連絡表からの情報やケア会議で職員より意見を聞き取りモニタリングに反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づき等を支援経過表やケア連絡表に記入し、ケアプランの見直しに生かしている。また医療と密に連携をとり反映している。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに対応した柔軟なサービス提供に心がけ、多様化に向けて取り組めるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を上手に活用できるように心掛け外出等している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切にし、主治医との連携をとり医療連携をとり良い関係を築いて適切な医療を受けられている。訪問診療を開始した。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員はバイタル計測し日々の変化、体調などの気づきに対し看護師と相談し適切な看護や受診が行えている。24時間オンコールできる体制もある。病院に直接電話し主治医や病院看護師と情報共有、また救急救命士同乗し搬送する体制もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関は同法人内にもあり医療連携をしている。入院時を含め病院との連絡、情報の提供は密にとれており、良い関係を築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対して、入所時にご家族、ご本人と話をし施設で出来る事の説明を行っている。法人本部の病院関係者との関係づくりは出来ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えマニュアルを整備し迅速な対応ができるよう心掛けている。法人内で研修も開かれており参加し実践力を見に付ける取り組みをしている。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の非常用避難スロープを製作したうえで年2回の定期的な訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。運営推進会議等でも議題にあげ話をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重した声かけや対応をしている。認知症の理解も必要である、その人らしさ、個人を捉えた対応をする様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の希望や思いを聞き取り、本人の意思に沿った支援を行っている。自分の思いを認知症の為声として表出する事が困難な人もいる。その人の姿、行動から察し気付くという事を職員は大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	効率ばかりにとらわれずその人のニーズを常に考え職員都合になってしまわないように日々その人らしい暮らしの支援を心がけている。日々話をする事で		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人希望の服を選んでもらいその人らしいおしゃれの支援を行っている。整容にも気遣い、身だしなみにも気を配るよう支援をしている。化粧等入居以前にしていた事も継続し行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの食事の好みを把握し、食事の楽しみの提供、配膳、食器洗い等、職員と共にやっている。家で行っていたことを引き続き行っただき認知症の進行やADLの低下を予防している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分摂取量に気を配り、本人の摂取しやすい食事形態の提供を行っている。好みの把握をに対応している。定期的に血液検査等を実施し状態の把握をしている。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に各利用者に合わせた口腔ケアを行い口腔内の清潔を図っている。臥床時には入歯を洗浄剤に浸け清潔を保っている。市との研修座学実践口腔ケア技術向上事業にも参加した経験を活かし活用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツ使用の無いように支援し、個人に合った排泄方法やトイレ誘導時間を設定している。また、相手の自尊心を傷つけない声掛け、対応に配慮している。本人の排泄リズムが把握できるように排泄表で確認している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段から便秘予防に気を配り飲食物の工夫や適度な運動を取り入れ活動性向上を実施している。必要により医師に相談し指示をもらい薬での対応をしている。薬も調整をして適切な本人の苦痛でない排泄ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて日のあかない様調整をして温度、入浴時間を適切に管理し楽しく入浴ができるよう支援している。利用者の要望に応え入浴剤や足湯の活用等様々実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて休息や夜間睡眠が良いものとなる様、各利用者に合わせて支援している。また中には自身で伝えられない利用者もあり、日々の様子から職員間で情報共有し個人に合わせた休息時間をとるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の処方薬の目的を理解して服薬後の症状の変化に注意している。場合によっては医師や薬剤師に相談をして調整変更中止を行っている。処方薬を各利用者でまとめ職員が直ぐに把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人ひとりに合わせたレクリエーションなどの楽しみや居心地の良い場の提供を心がけて支援している。家でしていた事の延長をなるべく施設でも出来る取り組みを実施している。		

静岡県(グループホーム実夢青木)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍という事もあり困難ではあるが、一人ひとりの気分転換をはかるため外に出る機会はつくり対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金(小銭)の所持をされている入居者もあり、希望や能力に応じてお金の使用ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には自由な電話の使用を支援し、手紙のやり取りも自由に行っている。文通をしている利用者や遠方の家族、友達とも電話をしたりかかってきたりと繋がりを継続するように援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快なモノ、混乱を招くようなモノを置かないようにしている。季節を感じられるよう時節に合った飾り物、花を植栽し楽しんでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれたり、気の合った仲間が過ごせるような居場所の工夫をしている。安心感や自分の居場所を見つけてもらうよう見守りケアをしている。初めは職員が介入しコミュニケーションをとり関係作りをしその人同士の繋がりをつくる支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談をして本人の使い慣れたものや好みのものを置き、落ち着いて過ごしやすい空間作りをしていただいている。安心できる場所、自分の居場所という認識を持っていただくように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力に合わせ安全かつ自由で快適な生活ができるよう心掛けています。できることとしていることの把握を職員間で話をし、過介助とならないようにケア会議で話をし援助している。		